

『いのちの授業』を実施しました

11月14日（木）、岐阜県総合医療センター新生児内科医長 寺澤大祐先生をお招きし、『いのちの理由～コウノドリの現場から、あなたへ』と題し、ご講演をいただきました。

新生児の命や健康を守る最前線で活躍される寺澤先生の、一人一人の新生児に対するリスクや、命を守りきるための行動力に圧倒された90分でした。

しゃぼん玉の歌詞、ウガンダの元少年兵の話、小さく生まれた赤ちゃんが3週間でしっかり大きくなる話など、命にかかわる数々のエピソードに、この世に生を受けることの尊さや身近な事柄に誠実に取り組むことの大切さを感じる貴重な機会となりました。



放課後の座談会では、生徒の質問や相談に、丁寧にとても温かくお答えくださいました。「人に会いに行こう。（一歩を踏み出そう。）」というアドバイスや、「医師の仕事とは？」という質問に、「人の夢を守るのが私たちの仕事です。」とお答えになったことが印象的でした。



<生徒の感想より>

・ たまたま今を生きているのだから私たちは生き抜かないといけないという言葉がとても印象に残りました。誰も未来のことは分からないし、5分後10分後に生きているかも分からない、そんなたまたま生きている人生なのだから、僕たちはその命を大切に自分のため他人のために生きなければいけないと気付かされました。

・ 生まれる時に問題を抱える人が30人に1人というところに一番驚き、ウガンダの人は、少年兵として安全も保証されないということを知り、今の自分は恵まれているなと感じたのと同時に、毎日、昨日の自分よりレベルアップしたいなと考えました。死が身近にない自分たちだからこそ一日一日を意味あるものにして、悔いのないように生活すること、それが僕の役割であるというふうに思ったからです。

・ 私の従兄弟は800gの低体重で生まれてきたが、現在超がつくほど元気な小学6年生だ。彼は心臓がまだできてないまま生まれてきたので、何度も医師の方々にお世話になっているはずだ。寺澤先生の『絶対に助ける覚悟』を私も仲間も持っている」という言葉を聞いて、自分には、他人のために動くという意志がヒーローの様に見えた（聞こえました）。私はヒーローにはなれないかもしれないけど、少しでも人を助けられる様に、生きているということ大切にしていきたいと思う。

・ 人生の幸せは決められたものではないし、一人一人普通は違っていいんだと思えました。また、障がいを持っている人をかわいそうだと思うのは違うという言葉にドキッとしました。頭では分かっているつもりでも無意識にそうやって思っている自分がいたからです。でも先生の話を知り、みんなのそれぞれの普通がとても特別なんだと思えました。私は個性を持ったみんなと寄り添える人でありたいです。

私は今受験生で、何も変わらない毎日を送ってるなと思うし、成長できてるのかなって不安になることも多いです。だけど、人は3週間で変わるという言葉を知り、前に進める気がしました。また自分のために勉強しているという言葉が腑に落ちました。私が今頑張ってるのは自分のためであり、それはいつか他人のため社会のためになる。全ては繋がっていて、私には生まれてきた意味、命の理由がある。その話で自分が肯定されたような気がします。